

# 宿縁

四月号

## 感応道交の世界



千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗  
本願寺派  
**中原寺**

TEL 〇四七―三七二一〇二九二  
FAX 〇四七―三七二一〇二六二

にわかに「万葉集」が注目されてきそうです。万葉集は奈良時代にまとめられた日本最古の歌集で長歌、短歌、詩、書翰なども収録されて豊かな人間性にもとづき現実に即した感動を素直に表す調子の高い歌が多いそうです。

また今は桜のシーズンであてやかな日本の花をイメージしますが、梅は古来から親しまれ、寒さを乗りこえて春を告げるその香り高い気品が人びとの心を愛でさせてきたようです。

さらに当寺の所在地である市川市内の真間という場所（徒歩三十分）には万葉集に出てくる「手児奈伝説」があつて、あらためて脚光を浴びてきそうです。

伝説歌によると、下総国葛飾の真間に粗末な身なりはしているが、うら若い美しい乙女「手児奈（てこな）」がいました。自分を求めて二人の男の争うのを見て、罪の深さを感じ自ら真間の入江に入水して命を絶つたといひます。

その話を詠んだ和歌が載っています。  
「勝鹿の真間の井を見れば立ち平し  
水汲ましけむ 手児奈し思ほゆ」  
（高橋虫麻呂）

「われ見つ人にも告げむ葛飾の  
真間の手児名が奥津城とてころ」  
（山部赤人）

近くには万葉の道があつて尋ねて見たい所

です。

さてもう一つ今注目されているのが伊藤若冲の描いた「象と鯨図屏風」の絵です。近年、高い評価を得ている絵師、伊藤若冲（1716～1800）は花鳥画など緻密な描写で知られていますが、この屏風絵は奇想で不思議な作品です。左に潮を吹きだしている黒い鯨と右に鼻を高々と上げてうずくまる白い象。海と陸の生き物が左右に対峙して描かれています。八十歳過ぎてからの作品だそうですが想像力をかきたてられます。

というのも、生命科学者で知られる福岡伸一さんが訳したライアル・ワトソンの「エレファントム」の本を知ったからです。ライアル・ワトソン（1939～2008年）はアフリカ・モザンビーク生まれで動物行動学の博士号のほか、生態学、植物学、心理学などの学位を持ち、動植物界、人間界における超常現象を収集し、またクジラやイルカの行動学を駆使し、一環して「生命」と「意識」を結ぶ神秘を追求しました。

その著書の一つが「エレファントム」象はなぜ遠い記憶を語るのか」です。物語は、ワトソンが少年時代を過ごした南アフリカで密猟と開発により、かつて多く生存していた象が激減していく様子を追いながら不思議な体験と、アフリカに込めた思いを舞台に展開されていく作品です。

そしてクリスナで減りゆく象のある群れを追い、最後の一頭になった母親象（太母）が海を見渡せる崖のところに来て、一方では海面とほぼ水平に浮かび、高々と垂直に潮を吹き上げるシロナガスクジラがあたかも対面して交信しているがごとき場面が記され

ています。太母は、この鯨に会いに来ていたのだ。

『海で最も大きな生き物と、陸で最も大きな生き物が、ほんの100ヤードの距離で向い合っている。そして間違いなく意思を通じあわせている。超低周波音の声で語り合っている。私は涙をこらえ、二頭の彼女たちに背を向けた。そこはちっぽけな人間がいるべきところではなかった。』

この箇所は衝撃を与えるほどの響きがあります。象も鯨も私たちには聞こえない波の低い響きを聴いています。それに比べ人間の聴覚は僅かな勝手な音しか聞こえず、しかも肝心の音が聞こえません。

親鸞聖人が明かしてくださった仏法のご法義は南無阿弥陀仏のいわれを聞く一つで安心の境地を得る（救われる）というものです。南無というのは帰命で、わが心に還り（戻る）なさいという阿弥陀仏の我を招く呼び声だと教えてくださいます。

仏教には「感応道交（かんのうどうこう）」がなければなりません。仏と人間に気持ち相通じ合うこと。人間の素質と仏の導きが相互に通じて融合することです。「感」は人間が仏の救済しようとする心を感じることに、「応」は仏がさとりを求める人間の願いに応ずることを意味します。

すべての生物は海から生まれると聞きますが、最後に遺された母親象が帰ろうとする海に向い、呼応して鯨が迎えるという光景を、若冲によって描かれたことにただ驚きと不思議を感じます。そして描かれた象の表情が笑みをたたえていることに胸が熱くなります。4月7日まで都美術館で開催中！

【寺灯雑記】

○東京教区仏壮研修会に参加

2/17～18

2日間にわたって山梨石和温泉のホテルを会場にして開催された東京教区仏教壮年会連盟の記念日研修会は教区内寺院から203名が参加(当寺より3名)しました。

「しあわせ・苦」のテーマのもと安方哲爾師が法話され、しあわせとは？苦はなぜ生じるのか？について話されました。日頃の漠然としか考えていない言葉なので深く気づかされる内容でした。

○東京教区仏婦連盟研修会に参加

3/1

東京教区1都8県の寺院が加盟する仏教婦人会連盟研修会が築地本願寺本堂が満堂の中で開催され、当寺婦人会からも18名が出席しました。

午前中の研修は布教使清岡隆文師による「念仏者の生き方」と題して、現門主様が伝灯奉告法要のご親教であらわされた「念仏者の生き方」の意味するところをわかりやすくお話しいただきました。午後は毎回仏教讃歌を教えてくださいださる南莊乗宏師が「あなたがいるからあったかい」、「ねがいの歌」の2曲をその味わいととも歌い、みんなで合唱しました。(坊守さん報告)

○彼岸会と宿縁廟法要を営む

3/21

お彼岸のお中日に当たる3月21日は朝方までの雨模様が止み春の暖かさの中を1時から宿縁廟入廟者の法要が碑前において

勤められ、新たに8名の方のご遺骨が納められました。

続いて本堂では大勢の参詣者と共に阿弥陀経による彼岸会法要が賑々しく営まれました。

この日の講師にお招きした大分の佐藤第二病院院長の田畑正久先生は長い間の医師としての経験から、また自らが念仏者の立場から仏教という生・老・病・死の解決の必要性を各所で説いておられます。

午前中に行われた懇話会での質疑の場で、そして午後の法要に続くご法話では、仏法(念仏)に生きる人生は、①教えを持つ。②主(阿弥陀さま)を持つ。③友(同朋)を与えられる。④生きてい、る場が浄化されることであると具体的に明示していただき、日頃に仏縁のない人にもやさしく心に響きました。

○「和讃に学ぶ」～「教行信証」へ

3/23

2013年(平成25年)12月から毎月第4土曜日(原則)に学習してきた「和讃に学ぶ」は今回で終了し、4月からは浄土真宗の根本聖典といわれる「教行信証」を学ぶことになりました。

前住職の講師による「親鸞聖典セミナー」は、1999年(平成11年)1月から開始され毎回20名ほどの人数が参加して、テーブルを囲みながら充実した学びをしています。山門の掲示板を見て参加したという人もいて、聖典を通して教えを身近に感ずる雰囲気をもっています。どうぞ一緒に学んでまいりましょう。

○市川市議選に石原みさ子氏を推薦

来る4月21日に行われる市川市議会議員選挙に当寺門徒である石原美佐子さんが3期目を目指して立候補する予定です。

石原さんは主に福祉と子どもの教育について力を入れて市政に取り組んでいます。

【参加者募集!】

☆川越喜多院と蔵造りの町散策バス旅行

\*期日―六月十八日(火)

\*参加費―一万円(寺院懇志、昼食代含む)

\*募集定員―40名

\*申込み―5月末日まで

\*行程

市川より観光バス(8時出発)→光西寺参拝→昼食→蔵の町散策→喜多院(五百羅漢)等→市川着(16時頃)

皆さまとの親睦を深める1日バス旅行を企画しました。お誘いあわせお申込み下さい。

参加費は00130-0-111827 中原寺の郵便振替口座番号へお願いします。

【行事、法座案内】

☆子どもはなまつり(釈尊降誕会)

\*四月七日(日) 午前十時半より

・らいはいのうたのおつとめ。仏さまのお話。もちつき。オリジナルタンブラー作りの体験など、楽しいこといっぱい。

お釈迦さまのお誕生日は花御堂の誕生仏に甘茶をかけてお祝いしましょう。

ご家族やお友だちを連れてお出かけ下さい。つきたてのおもちやおみやげもたくさん用意して待っています。

○婦人会法座

\*四月七日(日) 一時半

・四月の法語カレンダーの言葉を学ぶ  
・唄おう仏教讃歌と童謡

○壮年会法座

\*四月七日(日) 一時半

・四月の法語カレンダーの言葉を学ぶ  
・座談会

○子育てサロン(パンダっ子)

\*四月八日(日) 十一時～十四時

わいわいがやがや親子で遊び、情報交換や子育ての知識を身につけます。

○いのちの居場所を考える会

\*四月九日(火) 十時～正午

「場の思想」から人間を含めた生きものが、この狭い地球で、共に存在していくには？参加者で意見を交換します。

○入門式

\*四月二十一日(日) 十時

新たに当寺とご縁を結ばれた方を仏前に奉告する入門の式です。

○常例法座

\*四月二十一日(日) 一時

布教使熊原博文師ご法話を聴聞します

○教行信証を学ぶ

\*四月二十七日(土) 二時

○お仏具磨きと清掃奉仕

\*五月四日(土) 十時

○宗祖降誕会並びに永代経法要

\*五月十九日(日) 十一時

講師・山崎龍明師

○今月の掲示板のことば

大丈夫だよ  
あなたも 仏さまの み手の中